

会 議 要 旨 (意見要旨)

会議の名称	第10期 第1回新宿区男女共同参画推進会議
開催日時	令和4年7月28日(木) 午前10時~12時
開催場所	新宿区役所 6階 第4委員会室
議長(会長) 氏名	早稲田大学文学学術院 教授 村田晶子委員
出席者(委員) 氏名(人数) 敬略称、順不同	<p>神奈川大学法学部教授 井上匡子委員 清泉女子大学文学部地球市民学科教授 安齋徹委員 公募区民 オールセン八千代委員 公募区民 則竹達朗委員 株式会社チェックメイト 藤澤薫委員 株式会社ホテル小田急 山口雅雄委員 区立小学校校長会 樺沢一彦委員 区立中学校校長会 郡吉範委員 町会連合会 山田和男委員 民生委員・児童委員協議会 久田光子委員 青少年育成委員会 山浦秀彰委員 区立小学校PTA連合会 宮本亮平委員 公共施設利用団体 佐藤直子委員</p> <p>計14名</p>
欠席者(委員) 氏名(人数)	<p>公募区民 李永淑委員</p> <p>1名</p>
事務局の出席者	<p>生田淳(子ども家庭部長)、渡辺隆介(男女共同参画課長) 谷崎(男女共同参画主査)、三澤、鈴江 株式会社創建 内田、砂田</p>

発言者	内容
次第 1 開会	
次第 2 委嘱状交付	
次第 3 区長挨拶	
次第 4 委員自己紹介	
次第 5 事務局紹介	
次第 6 会長・副会長の選出	
	会長：村田晶子委員（委員より推薦） 副会長：井上匡子委員（会長より指名）
次第 7 議題 新宿区の男女共同参画施策について	
① 新宿区第三次男女共同参画推進計画について	
事務局	《 進捗状況報告 》
委員	介護を行う家庭に対する支援の中で、現計画ではヤングケアラーへの支援がうたわれていない。今後の課題としてどうするのか。
事務局	次期計画について来年度策定作業を行うが、その中でヤングケアラー支援の視点も必要ではないか等、ご意見をいただきたい。
委員	指標の達成率がおおよそ 6 割程度だが、達成度はどのようなものか。
事務局	例年に比べ大きく変わったことはないが、新型コロナウイルス感染症の影響で集客を伴う事業については、未達成となったものが見うけられる。例をあげるとワーク・ライフ・バランス推進企業の認定企業数等で影響が出ている。このほか長期的な指標もあるので、6 割だからいけないという訳ではないと認識している。
委員	次期計画に向けての意見だが、いかに子育てに男女双方が関わっていくかという視点が必要と思う。しかし、男性は仕事との両立が難しい社会になっているので、それを曲げて子育てに参加する男性が多くなると、女性も働きやすくなるのではないか。現計画では「男性に向けた意識啓発」が該当するが、目標が「満足度」となっており、参加する男性は、既に意識が高い人だと思っているので、目標を定めるのであれば、参加者数やアンケート等での男性の育児参加率の方がいいのではないか。
事務局	令和 2 年度の計画の見直しの際に、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みて、目標を「満足度」に変えた経緯がある。次期計画の策定にあたっては、コロナの状況も踏まえて、またご意見をいただきたいと考えている。
委員	コロナによる講座のオンライン化について、オンラインにしたことによってどのくらい効果があったか、また、参加者の反応はどうだったかを教えてほしい。
事務局	当課（男女共同参画課）で行っている講座だけだが、満足したという回答が平均で 94%となっている。オンラインの場合は一定期間受講できるメリットが

	<p>あるので、指標にはないが、全体としてオンラインのほうが参加数が多かった。また、参加者の意見として、好意的な意見も多かった。</p>
委員	<p>評価の方法についての意見として、数値によって達成・未達成の判断をしているが、なぜ未達成なのか、どういうことで達成なのか等、もう一步踏み込んだ評価内容が知りたい。次期計画に向けて、評価に対する進捗状況もそういった視点が必要ではないか。</p> <p>オンラインでの事業実施が行われてきたが、今後、オンラインと対面でどちらが効果が高いかの分析をお願いしたい。また、PC等を使えない人への配慮も考えなければいけない。</p> <p>令和2年度に事業を見直したが、見直した点について、もう少し詳しく分析がほしい。特に事業57ひとり親家庭への支援事業においては重要だと思うので、分かれば教えてほしい。</p>
事務局	<p>次期計画の策定にあたっては、現計画の評価が前提になってくるが、井上委員の言うように詳しい分析を踏まえた上で計画策定となると認識しているので、各部署においてもその認識で、次期計画内容を検討いただくようになる。あわせて、今年度実施している意識調査の結果も加味して策定をしていく。</p> <p>オンラインについては、現在もコロナの状況等によりオンラインと対面を使い分けている。オンラインの評判もよかったので、今後もしもコロナが収束したとしても、今のところはオンラインの活用も考えており、事業個々に向けた実施方法で行っていく。</p> <p>ひとり親家庭の支援については、コロナ禍により相談件数が少なくなってきた。さらには常勤職員として雇用する企業も、営業自粛等により従業員の雇用が難しくなり、就労状況も下がっている。</p>
委員	<p>出張所でのサポート等で少しずつ改善されてきているが、オンラインが進む中での高齢者等のPCを使えない方への配慮は区としてはどう考えているのか。</p>
事務局	<p>例えば、民間に委託してスマートフォンの使い方講座を実施する、小学校でもメディア・リテラシーの取り組みを進めているなど、小さいことではあるが行っている。</p>
② 審議会等における委員の男女比率状況調べ	
事務局	<p>《 結果報告 》</p>
委員	<p>比率が0%の会が5つもあるが、1人でも別性の者を指名するなどはできないのか。</p>
事務局	<p>区の職員があて職として構成されている会がほとんどで、0%を回避するためだけに仕組みを変えるのは、今のところ行っていない。</p>
委員	<p>昨年の報告でも0%の会が存在していた。だからこそ目的を外さない範囲で仕組みを変えるのは必要だと思う。検討をお願いしたい。</p>
③ 第10期新宿区男女共同参画推進会議審議事項等について	
事務局	<p>《 計画説明 》</p>
会長	<p>事務局から現計画が配られている。計画を策定するプロセスの中に、暮らし</p>

	の実感や社会の大きな変化が反映されていることが非常に意味があると思うので、その観点から、現計画やこれまでの調査表などに目を通して準備をお願いしたい。
閉会	